矢部川3大水害記録写真展

矢部川橋に体当する漂流物と激流六月二十八日に至り橋脚傾斜し交通不能撮影時は水位は既に一、五米減水した。

福島町津の江　矢部川右岸津の江部落川原畑に濁流は押寄せた

平成24年の矢部川豪雨災害。それは、多くの人にとって想定外の自然の猛威でした。しかし、過去にも、大正10年、昭和28年と矢部川流域は同規模の大水害に繰り返し見舞われてきました。当館では、これら三大水害の記録写真80点余、江戸時代の川絵図、水害記録誌などを展示します。

矢部川流域に暮らす人々は、古から豪雨災害の都度、果敢に立ち上がり復興と再生を図ってきました。しかし、今日では、山間地特有の過疎化、山林や田畑の荒廃など、今まで以上に幾多の困難が立ちはだかっているようにみえます。これらの課題が行政と地域住民の英知を結集して克服さることを切に願わずにはおれません。

さらに、本写真展が、洪水避難・防災知識の習得、治水事業の啓蒙、被災地の復興と振興などの一助となれば幸いです。ご来館をお待ちしています。

期間＝6月3日（火）～6月29日（日）

会場・問い合わせ＝八女市横町町家交流館（☎２３・４３１１）

八女の宝物

ほたる飛ぶ清流

遅い夏の陽が沈むのを待って夕涼みに外へ出ると、家の周りを十匹余のほたるが静かに舞っている。一時はこの辺からすっかり姿を消していたから少しずつ復活しているのは嬉しい。地域の方々はじめ関係者の自然環境保護、水質浄化の地道な努力の成果であろう。ほたると言えば十年以上前になるが、黒木町田代で見たほたるの群舞が忘れられない。対岸の樹木の梢から光の滝のように川辺に舞い降りてくるのである。真っ暗闇に点滅する無数のあえかな光の中に、一瞬引き込まれるような迫力があった。

一昨年の大水害で八女地方の河川はずい分と荒らされただけに、川の復旧状況はいつも気になっていた。六十代から上の世代、八女・筑後に育った我々の子ども時代は川を通した思い出がいっぱい詰まっている。特に夏休みは朝のラジオ体操に始まって魚獲り、水遊びなどで唇をまっ青にして一日のほとんどを川で過ごしていた。澄んだ川底にはきれいな川砂、小石の下には小魚が見え隠れしていた。前夜仕掛けていた置き針にナマズやたまにウナギが掛かることもあった。水量は減り、護岸工事で当時の姿には戻らないだろうが、ホタルの舞い飛ぶ清流、全国の釣りファンが憧れる「金アユ」が生育する八女の清流こそ、いつまでも残しておきたい八女の宝物である。今年も5月下旬から6月初旬にかけて立花町辺春、上陽町北川内、黒木町田代等でホタルまつりがあるようだ。今年こそ清流の復興を願って一夜ほたる狩りに出かけたいと思っている。

樋口　保　画　　眼鏡橋と蛍
（ふるさとカレンダー30年の歩みより）

楽しい絵手紙

八女市龍ヶ原
坂本　スミカ

大東寺絵手紙教室は、知人の方より紹介して頂き入会してもう数年通っております。

絵はなかなか上達しませんが、大坪先生のやさしい一言に励まされ続けております。

絵のきっかけは、星野富弘氏のカレンダーです。手の不自由さを感じさせぬ絵、文章に感動を受けました。これから孫やお友達へ手軽に四季折々絵手紙を出せる様に頑張りたいと思います。今年で九回目の絵手紙展示会です。どうぞお立ち寄り下さい。大東寺様、大坪先生これからも宜しくお願い致します。

新茶販売実習

八女農業高等学校

どんたくで賑わう５月３日（土）福岡市の天神岩田屋本店で、本校の新茶を販売しました。

生産技術科茶業・作物専攻を代表し、３年の池田夏奈さんと築地原香奈さんが、販売実習を行いました。２人とも、お客様の多さにとまどいながらも、高校生らしい初々しい態度で、新茶の試飲を勧めたり、お茶についての説明を一生懸命行い、とても好評でした。お客様からは「毎年購入してます。おいしいお茶だわ」「頑張ってね。応援しているからね」と励ましの言葉をいただきました。

これまでの学習の成果を充分に発揮すると同時に地域貢献にもなり貴重な販売実習でした。

６月の（八女農みらい館）開館日

３日（火）、６日（金）、10日（火）、13日（金）、17日（火）、20日（金）、24日（火）、27日（金）

販売時間は、10時30分～15時30分です。

多くの皆様がお越しいただくことを心よりお待ちしています。

呟き

若葉の頃

まだ頬に当たる風が少し冷たい春の夜、歩いていると新緑の匂いがした。ふと見上げると、こないだまで花を咲かせていた桜の木に若葉がたくさん息吹いていた。時は流れている。嬉しいような寂しいような。

さっきまで居た店で学生時代の友人と久しぶりに会った。辛い出来事をすっかり乗り越えて逆に私を励ます友。新しい目標を見つけ充実した毎日を送っている友。あたたかい家庭に見守られて安心した笑顔を見せる友。もっと上手くなりたいと演奏技術を研磨する友。皆前に進んでいる。嬉しいような寂しいような。

私はといえば、一年前の日記を開いてみると今と同じことを綴っている。時は流れているのに。季節は巡っているのに。

今年も咲いているだろうか。実家の庭のツツジ。燃えるような鮮やかな色でいつも私の背中を押して送り出してくれていた。未来があって希望があって夢があったあの頃、幸せな自分の将来を思い描いていたはず。

新緑の若葉のように愛情という太陽の光いっぱい浴びて、鮮やかなツツジのように明るく誰かの心を和ませて、何の不安もなく、何の苛立ちもなく、何のおそれもなく、穏やかに前に進みたい。きっと、それが今の私が描く幸せだ。

森　志穂